

令和8年度 大町南部小学校 経営ビジョン

1 教育理念 【子どもに開かれた学校づくり】

変化が激しく、予測困難な時代。自己実現を果たし、自身が思い描く幸せに向かうためには生涯にわたって学び続けなければなりません。自らが課題を見つけ、学び、考え、行動すること。他者と協働して活動を進めること。これら探究的な学びを繰り返していくことで自己更新していくことが大切です。「学んでワクワクする。」「もっと学びたい。」「友だちと学ぶと楽しい。」そんな子どもを育てます。そこで学校教育目標をよりよく生きるために「学び続ける」とします。

「学び続ける」ために、学校は子どもの言葉が語られ、思いが受け入れられ、伸び伸びと行動できる、安心で、あたたかで、やわらかな場である必要があります。そのために子どもの尊厳が最優先される、開かれた学校をつくっていきます。教育理念「子どもに開かれた学校づくり」の根底にあるのはこのような考え方です。

「子どもに開かれた学校」では、子どもの実現したい願いからスタートし、見通しを持ったり選択したり、友だちに相談したり友だちの提案を取り入れたりしながら願いの達成、ゴールを目指します。自らが決め、挑戦し続けることが大切です。その過程で自分と相手の良さが明確になり、尊重されていきます。自他を大切にす心情も育まれていきます。「子ども同士が開かれた学校」になります。

「子どもに開かれた学校」では教師の姿勢が重要です。子どもの言葉を最後まで聴いて、子どもの思いにどこまでも寄り添っていくこと、活動を子どもに委ねていくことが大切です。また教師同士、お互いの良さや持ち味をいかし、共に学び続け、子どもについて語り合います。「子どもと教師・教師同士が開かれた学校」となります。

さらに子どもの願いを真ん中におき、学校・保護者・地域それぞれが子どもへの願いを語りながら、一体となって子どもを育む「地域に開かれた学校」になります。その過程で学校に集う者同士の理解が進み、お互いの信頼関係も深まり、さらに子どもをよりよく育てて行こうとする好循環もうまれていくことでしょう。

以上のことから「子どもに開かれた学校づくり」を教育理念に据え、学校経営を進めます。

2 めざす学校像 【授業を根幹とする学校】

学校教育目標「学び続ける」の具現に向け、学校生活の大半をしめる授業は、自身の願いや課題をもとに主体的に他者と協働するといった探究的な学びを繰り返すことで自己更新されるものでなくてはなりません。やりたいと願うことに思い切り取り組め、自分の力が伸び伸びと発揮される、子どもに開かれたものである必要があります。

そこでめざす学校像を「授業を根幹とする学校」とします。従来型の一斉授業は出来る限り最小限にとどめ、主体的に、聴く、問うから始める対話活動を基盤として、お互いに語り合い、聴き合い、考え合う「協働の学び」を授業の軸としていきます。

かつてのような知識や技能を早く正確に習得することを重視した授業ではなく、児童が新たな世界と出会い、友や教師、自身と対話しながら探究的に学習を進めることで自己更新し、自分の新たな可能性を見いだせる授業へ、授業の質的改善を進めます。そのために子どもの願いや実態を捉えながら、子どもが思わず挑戦したくなるような問いの開発をさらに進めてまいります。また学校行事を始めとした特別活動や総合的な学習の時間等では、子どもの思いや願いをもとにスタートし、自分とみんなの活動となるような学びの課程を追求し、子ども自らが「計画・実践・振り返り」というサイクルを経ることで、自身が友だちと協働しながらやりとげたという自己有用感を育んでいきたいと考えます。